

日野市立教育センター一報

教育センターだより

第7号 平成17年12月5日発行



日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分
～午後5時15分



江戸しぐさに学ぶ

日野市教育委員会

教育部参事

田 口 康 之

十年一昔として、その時々「心の問題」をとらえていくことは大切なことです。
福沢諭吉は、当時の若者に対して、次のような言葉を投げかけています。

- 1 世の中で一番楽しくて立派なことは、一生を貫く仕事をもつこと
- 2 世の中で一番惨めなことは、人間として教養のないこと
- 3 世の中で一番寂しいことは、する仕事の無いこと
- 4 世の中で一番醜いことは、人をうらやむこと
- 5 世の中で一番尊いことは、人のために奉仕をし、決して恩にきせないこと
- 6 世の中で一番美しいことは、全てのものに愛情をもつこと

この願いは、百年経った今でも通じる事柄です。

私が以前に読んだ「商人道～江戸しぐさ～の知恵ぶくろ」（講談社）を紹介します。

江戸時代の人々の共生と互助について書かれているものです。その中で、今の子ども達に知ってほしい「江戸しぐさ」について3つ示しています。

「傘かしげ」・・・人のいない方に傘を傾ける。

「肩引き」・・・人とすれ違うときに、ぶつからないように肩を引く。

「こぶし腰浮かせ」・・・自分が座るときに、腰を浮かせて他の人が座れる場所をつくる。

江戸の人の半分は町方（庶民）でした。町方の居住面積は、江戸全体の16%だったようです。狭く小さな地域に住む人々が、他の人々と共存して気持ちよく暮らしていくための知恵が「江戸しぐさ」となって表現され、そのしぐさを親や町方がとりわけ意識もせず、子どもに伝えていったのです。まさに、真の地域力が存在したのです。

明治以来、教育の基礎・基本として世間が求めてきたものは「読み・書き・そろばん」とともに、「思いやりの心」であったと思います。「江戸しぐさ」の中で、ある人が他の人の足を踏んだ時に申し訳ないと謝る場面がありますが、何と謝られた者は、踏んだ者に対して、私の方が足を出して申し訳ないと謝るのです。お互いが相手を思いやる心から出た言葉なのでしょう。

今、人を責めたり、争ったりすることが多い時代です。「江戸しぐさ」のような行動を誰でも自然にできればと思うのは私だけでしょうか。

教育センターには、地域の教育力を生かす事業がいくつかあります。地域教育リーダー養成講座では、地域のリーダーを育て、地域で暮らす子どもから成人までのよりよい生き方を支援しようとしています。また、七生地域にある『土曜のひろば』では、地域の教育力の結集をねらいとして活動し、確実に子どもの「生きる力」を地域において育てています。子どもの自主的な参加と意欲、体験を通して知識のみならず、お互いがかかわることで思いやりの心も培っています。

地域には、子どもたちのために役立ちたいと思っている人が多くおり、多様な活動が行われています。このような活動が「江戸しぐさ」にあるような、子どもたちに人を大切にしていける心が育んでいくのだと期待しています。

教育センターの事業は、教員や地域の方が、研究や研修をとおして、子ども達のよりよい学習環境づくりや子どもを伸ばすための処方を学ぶ場です。わかば教室を含め、一つ一つの事業は、子どもに返っていくのです。

教員、保護者、地域の方が教育センターの事業を通して、ひのっ子との望ましいかかわりを学び、学力向上だけでなく、その土台となる「思いやりの心」を培うことを学んでいただければと強く念じております。

地域運営学校（コミュニティ・スクール）研究

—教育経営係—

- ◎ 10月18日決定の中教審・義務教育特別部会の発表では「新しい時代の義務教育を創造する」項目において、

「これからの学校は保護者や地域住民の意向を十分反映する、信頼される学校でなければならない。また、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）や学校評議員の積極的活用を通じて、保護者や地域住民の学校運営への参画を促進することも求められる。教育を提供する側からの発想ではなく、教育を受ける側である保護者や子どもの求める質の高い教育の場となる必要がある。教育現場の意識改革がその鍵を握っている。」

と述べられ、この制度が一層促進されることが予想されます。

- ◎ 本研究委員会では、日野市におけるコミュニティ・スクールの在り方について研究しているため、下記のようにその先進校を訪問するなど、研究と考察をしました。

足立区立五反野小学校 4月20日（水）・三鷹市立第四小学校 6月21日（火）
習志野市立秋津小学校 8月10日（水）・千葉市立打瀬小学校 8月29日（月）
習志野市立秋津小学校研究発表会 11月4日（金）

- ◎ 今までの研究内容をまとめてみると

- ① 文部科学省・地域運営学校（コミュニティ・スクール）についての理解
- ② 各学校で実施している学校運営連絡協議会と学校運営協議会の違いの研究
- ③ 文科省（コミュニティ・スクール）指定学校における研究内容の把握
- ④ 上記訪問校等における導入上の課題・問題点の考察
- ⑤ 日野市のコミュニティ・スクールの在り方について調査研究
- ⑥ 共同した学校づくり、透明な学校づくり、開かれた学校づくりについての研究
- ⑦ 導入方法の研究

- ◎ 11月18日には、帝京大学の助教授、佐藤晴雄先生をお招きし、「学校運営協議会とコミュニティ・スクール」についてご教授いただきました。

以下、内容を抜粋すると

- ① 五反野小学校と三鷹第四小学校の学校運営について
- ② 杉並区・世田谷区の動きについて
- ③ 中野区立沼袋小学校の実践内容について
- ④ 教育ボランティアを中学校区にて募集することについて
- ⑤ 学校運営協議会と運営連絡協議会の存立について
- ⑥ 評議員の仕事内容について

評議委員からは意見をいただくだけでなく、事業体形式により、具体的な仕事があったほうが良い。（三鷹第四小学校の夢育支援ネットワーク形式）

佐藤助教授が評議委員をしている学校では、外部評価表の作成を担当している。

- ◎ 本研究の成果を、来年2月28日の本発表会において具体的に述べます。

郷土教育推進研究「郷土教育の特色を生かした指導事例集の作成」—ふるさと教育係—

学校において、日野市を知り郷土愛を育てる教育の充実が求められています。日野の自然や、歴史文化・伝統を生かした教育の充実のために、次の3つの視点から調査・研究を始めました。

1、郷土教育の必要性では

まず、市の人口の推移があげられます。平成13年度以降、他地区への転出者数に比べ、市内への転入者数が多く、地域を知らない新しい日野市民が増加していることです。

次に、社会一般になりますが、身近であるはずの地域がその機能を果たせなくなっていることです。個を尊重する生活意識の高まりは、反面では相互の絆を弱体化させ、市民意識、郷土意識の希薄化を進行させています。

そして、少年非行の多発、暴力事件、いじめ等の心暗くする現実、子どもたちの社会性の未熟さを感じます。豊かな社会性の育成は、歴史的な面や人々の働きや関わりといった角度からも、目の前の社会事象の意味を考える態度を身につける日頃の学習の積み重ねが大切と考えます。

学校では、①自然や歴史・文化・伝統にふれる学習を広げ、郷土が自分を支える心の拠り所であり、生きる基盤であると感じ学びとらせる ②郷土に関する適切な資料を授業に積極的に導入し、意図的、計画的指導の継続をとおして、地域社会を単に住んでいる場所という意識から、心が通い、自信や誇りがもてる郷土意識へと変える ことを目標にいた郷土に関する計画的な指導の継続です。

2、郷土日野に関する研究実績の収集と成果では

平成14、15、16年度の3年間について、市内の各

小・中学校関係者における郷土日野に関する研究の結果をみますと、次のような成果が得られています。

- 1、地域に対する意識の持ち方が変わり、地域を活用するようになった。
- 2、地域の人々、施設に親しみをもつようになり、感謝の気持ちももてるようになった。
- 3、教師自身が日野という地域のよさや特性を知ることが「教育の中で生かしたい」の意欲につながった。
- 4、地域に見守られているという温かさを感じ、学習を通して子どもに知らせることが大切と考えた。
- 5、新選組にゆかりの深い日野市を取り上げることによって、地域についての授業の改善に目を向ける。
- 6、郷土愛を醸成する。

先行研究の成果をもとに、「子どもの郷土意識を育む」指導のあり方を探究し、郷土教育が学校に根づいていくことを願うところです。

3、郷土教材の収集・開発及び活用に関する調査では（5項目の質問に関する回答の集計から）

学校副読本使用の学年、分野、教科名についての回答の集計は次のとおりです。単位（校）

NO	小学校・中学校 各学年 活用している教科名等（回答では、社会科と総合的学習の時間があげられました。）	小3年		小4年		小5年		小6年		中1年		中2年		中3年	
		社 会	総 合	社 会	総 合	社 会	総 合	社 会	総 合	社 会	総 合	社 会	総 合	社 会	総 合
1	社会科副読本（小・「私たちの日野」） （中・「のびゆく日野」）	19	1	16	1					8	1	2		2	
2	ひのっ子新選組探検隊	2		1				6	1	1	1		1		1
3	学校独自に作成した副読本 （周年行事関係等で作成した資料）	8	1	4	4	1	2	2	2						
4	地域教材資料カード （昭和60、61年度作成）											1			

※郷土教材として、小学校では「新選組探検隊」、中学校では「社会科副読本」をまず市内各学校で活用するようにしたい。以上のことをもとに、研究主題「郷土意識を育む指導のあり方」を設定し、現在、市内の学校で活用できる「郷土日野の特色を生かした指導事例集」の作成に向けての実践授業や研究に取り組み、郷土教材の開発並びに授業への導入方法等の情報提供ができるよう研究を進めています。

前年度実施したパネルディスカッションの中での課題を4つの分科会にわかれて研究しました。

- ・ 市内地域活動のネットワークづくりをどのようにしていくか。
- ・ 活動を活発にする学校・教員・保護者の動きやすい環境づくり、地域活動を活性化するための提言
- ・ 参加を促す魅力ある活動をどのように創っていくか
- ・ リーダー養成講座を含めて、研修システムをどのように進めていくか。

その結果、①日野市の社会教育事業②地域全体をカバーするネットワーク③各学校・地域をカバーするネットワーク④地域住民に密着したネットワーク⑤それ以外の団体等日野市の実態が見えてきました。

解決の方向として

- (1) 地域で活躍する地域リーダー、地域リーダーの活動を連絡・調整するコーディネーターの確保・登録が必要である。
- (2) リーダー養成講座を開き、リーダーやコーディネーターを育てる。
- (3) リーダー養成講座の修了者を含めた全市的な推進組織（地域教育協議会）の発足をめざす。

1. 第1回地域教育リーダー養成講座

10月22日（土）2時～4時 教育センター講堂 参加者 22名

講師 亀井 浩明先生 帝京大学名誉教授

「今、なぜ地域教育が必要なのか」という演題で講演をしていただきました。

講座内容

1. 地域環境の変化・・・希薄、人の交流が少ない、地域の解体？
2. 生活の実態・・・ライフスタイルの変化、自由気ままに、ニートも増加、就職スタイルの変化
3. 地域の新しい動き・・・子どもとの共同体験、リーダー養成、遊びの企画、郷土史の研究
4. 学校・・・地域運営学校、地域のセンター、地域の学習、環境の学習、中央教育審議会答申
5. リーダーに求められるもの・・・情報、中立、倫理、公開、弱者への配慮、金銭、男女、
6. 実践例・・・郷土史研究会、料理研究、スポーツ、環境美化、高齢者ボランティア、総合学習、伝統芸能

2. 第2回地域教育リーダー養成講座

11月5日（土） 午後2時～4時

教育センター講堂

参加者 18名

講師 福留 強先生 聖徳大学教授

「地域教育リーダーに求められるもの」という題で講演をしていただきました。

講座内容

1. 地域教育リーダーの意義と背景・・・地域の無関心、リーダーの不足。リーダーをコーディネートする人
2. 地域リーダーの資質と役割・・・地域社会に関心を持つ、特定分野における知識と経験
3. 子どもとまちづくりに関する取り組み・・・今、何故まちづくりなのか。まちづくりとは何か。
4. まちづくりに自分を生かす方法・・・生きがいつくりの時代、子どもに生きがいつくりが必要
全国子どもをほめよう研究会
5. まちづくりに活躍する子どもたち・・・中学生がまちづくりに参画。平成子どもふるさと検地
子どもがまちづくりに参画する例

3. 第3回地域教育リーダー養成講座

12月10日（土） 午後2時～4時

教育センター講堂

演題『地域の教育資源の発掘と活用』

講師 馬場武先生（日野市教育委員長職務代理者）

先生方や市民の方々も是非ご参加ください。ともに地域のことについて学びましょう

日野市教育委員会主催研修会から

—教職員研修係—

本年度4月からスタートした市教委主催の教員の研修は、新緑、雨期そして連日の猛暑の夏季研修も終わり、現在は、2学期の研修の大半が終了し、平成17年度の研修もあとわずかを残すだけとなりました。これまでの研修会参加状況の一部を紹介します。

研修会参加状況

1. 幼児教育研修

参加予定者	出席者	参加率
延 139 人	延 127 人	91.3%

2. 2・3年次教員授業力アップ研修

参加予定者	出席者	参加率
305 人	294 人	96.0%

3. 教育課題研修

参加予定者	出席者	参加率
176 人	149 人	84.6%

4. 教育相談研修

参加予定者	出席率	参加率
92 人	75 人	82.0%

5. 特別支援教育コーディネーター研修

参加予定者	出席者	参加者
112 人	102 人	91.0%

6. 学校組織マネジメント研修Ⅲ

参加予定者	出席者	参加率
102 人	89 人	82.4%

幼児教育研修会に参加して

第三幼稚園 比留間 千草

今回の研究保育では、昨年来第三幼稚園と至誠第二保育園とが交流を行ってきた5歳幼稚園児と5歳保育園児が一緒に遊ぶ様子を見ることができた。私は昨年末まで第三幼稚園に勤務しその交流の経過をみてきていたので、子どもたちの姿から、幼稚園と保育園という異なる場所で生活する子どもたちが、それぞれの思いを伝え合い、そしてかかわることの難しさを改めて感じた。

異園間での交流では、各年齢の発達を踏まえて、それぞれに意義のある交流となるように計画を進めていくことが大切である。それには、これからも第三幼稚園と至誠保育園との交流活動を進めていく上で、さらに保育者の保育感の違いを知る機会となり、お互いを理解し合い、高めあう機会となって欲しいと思った。

研究保育の指導助言をいただいた講師の岩立京子先生には、「思考力に基盤を培う保育」「今後の新しい幼児教育のあり方について」等のお話をお聞きした。その中で、研究の発表を行う際のプレゼンテーションについては、これまでの研究の経過がわかるような話し方の技術が重要であるとの指摘を受けた。聞く人によくわかるように、順序だてて伝える話し方は、「説明責任」という言葉が多く聞かれるようになった現代においては特に身に付けていかねばならない力なのだという事を実感した。

この事は、日々の保育の中でも、自分の行った保育が子どもたちを成長させていくためにどのような意義があるのか。又、どのようなねらいがあって保育を行っているのかを保護者に伝わるような話し方の努力をし、幼児教育を地域の方や小学校・中学校の先生方にも充分理解していただけるよう伝える力の技術を磨いていきたいと思う。

教育相談活動の状況

—一般教育相談係—

はじめに

教育相談も、潤徳小学校から教育センター（元高幡台小学校）に移転して2年になろうとしています。

移転当初は、交通の不便を理由に中断したケースが出るなど多少の混乱もあり、また、夕方になると通日も暗く人影も少ないこともあって、安全管理に気を遣う必要のある地ということもあって、私どもスタッフとしても不安を抱いてのスタートでした。

これらの問題に対して、夕方の面接時間を通常の60分から45分に短縮して少しでも多くの子どもたちが学校帰りに間に合うように工夫したり、夕方の時間帯は、高学年でも保護者と共に入室することを義務づけるなどで対応しました。

現在このような体制も整い、常に負担を強いられるのは来談者であることに痛みを覚えながらも、スタッフは子どもたちの成長や、保護者の方々の変容していく様に励まされフル回転をしているという状況です。

活動状況

1 面接

さて、具体的な活動の状況ですが、相談室の活動の中心は、言うまでもなく問題を抱える子どもたちへの援助であり、その保護者をサポートするということです。

通常、保護者（たいていは母親）と子どもそれぞれに担当がつきます。大人はカウンセリングというかたちで、子どもは「プレイセラピー」というかたちでセッションがもたれます。

子どもは、遊具のあるプレイルームで遊ぶことになりますが、カウンセラーは遊びを子どもの言語（象徴的表現）として理解し、関わることにより癒され、その子どもらしさが回復し、健康な成長を遂げてくれることを願っています。

親面接においては子どもに援助的な関わりができるお母さんになってもらうことが大きな目的のひとつですが、まずお母さん自身が理解され、癒されないと前に進めないほど今までの養育で、学校や近所との関係で、傷ついている場合も希ではありません。

2 面接過程の中で

a 連携

面接を進めていく中で親担当と子担当との間で沢山の話し合いがもたれます。その時々々の状態の理解や、今後の方向性などを確認します。そして必要に応じて、保護者の了解とともに、学校と連絡をとったり、学校に子どもの様子を見に出向いたりもします。担任はもちろんスクールカウンセラー、養護教諭、学校長との話し合いがもたれることも希ではありません。

b 他機関紹介

専門的な見解、治療を必要と判断した場合、医療に繋ぐこともありますし、専門のトレーニングの受けられる場を見極め、紹介することも大切な活動のひとつと考えています。

c アセスメント

子どもの状況をより客観的に理解する必要があると判断した場合、心理テスト、知能テストなどを取り入れることもあります。

しかし、人権の問題、それに関連して個人情報の取り扱いなど厳しく論議されるなか、諸テストについては以前にもまして慎重な対応が必要と考えています。

3 その他の機能

以上、相談室の中心的活動である面接とそれに関連したいくつかの活動（連携、他

関紹介、アセスメント) についてご紹介しました。

以下に、教育センターの相談室としての諸機能について述べてみたいと思います。

a 研修

教育センターは日野市の教育をよりよく推し進めるための研究、研修機関であり、相談室も夏休みに先生方に教育的関わりを理解していただくことを目的に研修を担当しています。昨年度は初任者研修、今年度は10年目研修を担当いたしました。

b 紀要

次年に向けて研究的にも、実質的にも前進できるよう一年間の活動をまとめ、振り返ります。

c 就学相談

就学相談は、教育委員会の学校課が主催しているものですが、子どもの状態を理解すると視点を提供するという形で、側面から協力しています。

d 地域ネットワークの一員としての連携

日野市およびその周辺には、子どもの養育・育成に関連するさまざまな機関、施設などがあります。児童相談所、保健所、子育て支援ネットワーク、児童館等々です。これらの諸機関と連携を保ち意思の疎通を良くしておくことは日常の相談業務の受け皿を整えておくという意味において大切なことです。そのため分担してスクールカウンセラーの連絡会、子育てネットワークなどに積極的に参加しています。

e 緊急対応への協力

学校、児童館など公共施設で事故があった場合、心理面でのケアについての要請があれば、これに応じています。

f 子どもこころの電話相談

教育相談室には「子どもこころの電話相談」が開設されており、随時スタッフが対応しています。電話という気楽さもあり子どもが直接電話をかけてくる場合も少なくありません。

おわりに

教育相談室の多岐にわたる活動のあらましをご紹介しました。この他にも統計をとったり、パンフレットを作成配布したりなど、人手不足のなか、全力を傾けて活動しているというのが現状です。活動をまとめ、改めて連携の大切さを実感し、日々の業務が滞りなく流れているのも、学校をはじめ、他の機関との相互理解・協力によるものと感じ、紙面をかりて感謝申し上げます。

一研究発表会のお知らせ一

ひのっ子教育21 研究員会

研究発表会

日時 平成18年2月23日(木)
場所・研究授業 日野第三幼稚園
日野第七小学校
大坂上中学校
13:25 ~
・研究発表 日野市民会館大ホール
14:35 ~

教育センター

調査研究事業発表会

日時 平成18年2月28日(火)
14:00 ~ 16:00
場所 教育センター
3階講堂

学校生活相談・「わかば教室」の活動

—学校生活相談係—

学校生活相談：「わかば教室」は、各学校が抱える不登校問題の状況把握をしたり、学校に行けなくなった児童・生徒・保護者の相談に応じたり、学校や家庭と連携して引きこもり解消への働きかけ（電話や手紙、家庭訪問など）をしたりするとともに、適応指導教室「わかば教室」に通うようになった児童・生徒に「安心して過ごせる学びの場」を提供し、彼等の「学校復帰」及び「社会的自立」を目指して、日々指導・支援に努めています。

不登校に悩む子どもたちとその保護者の方は、学校や教育委員会ばかりでなく、こども家庭支援センターなど地域の関係機関の紹介やインターネットで情報を得たなどでも相談・見学に来室されます。ほとんどの場合、保護者の方が児童・生徒とともに来室され、担当の所員・カウンセラーが中心となって相談を始めます。本人の状況に応じて、次の面談日を検討したり、「わかば教室」への入室体験を勧めたりします。

今年度 10 月までの新規相談者数は右表の通りです。このうち、4 名が在籍校に通学しており、新たな入室者は 15 名です。11 月 1 日現在の入室児童・生徒は 35 名（体験入室者を含む）です。いずれも学校と連絡を取り合っ

平成 17 年度不登校に関する新規の月別相談者数					
	小	中		小	中
4 月	0	4	8 月	1	1
5 月	0	3	9 月	0	4
6 月	0	2	10 月	1	2
7 月	0	3	計	2	19

て進めています。これまで毎月新しい入室者を迎えてきました。

入室（体験入室も含む）後は「わかば教室」の生活を段階ごとに設定して、個別から少人数による指導・支援へとステップアップを図っていきます。通室する児童・生徒は一人一人事情が異なりますが、それぞれに明るくなり、活力を増してきます。

「わかば教室」の活動は、毎日「朝の会」に始まり、午前中は「学習タイム 1・2」と「わかばタイム（運動・栽培・調理・音楽・図書作文など）」、昼休みは主に体育館で運動、午後は「学習タイム 3・4（小学生は活動：運動・図画工作など）」、「帰りの会」で終わります。児童・生徒は特に昼休みを心待ちにしており、汗だくになって運動し、体力も技術も向上しています。友達や指導員・ボランティア・カウンセラーと触れ合う楽しく貴重な時間となっています。

学習タイムでは、個に応じて、5 人の指導員が国数（算）英社理の学習支援を行っています。子どもたちの見せる意欲的な表情や態度に指導員はその使命感を膨らませています。

わかばタイムや行事では、集団において友達とともにできる体験を重視し、様々な活動を設定して、より望ましい人間関係がとれるよう指導・支援しています。遠足や牧場体験、地域学習、老人ホーム訪問など教室外に出る行事も計画し、自然や動物、人々との触れ合いなど自然体験・社会体験も大事にしています。彼等はのびのびと持てる力を発揮します。

これらの活動を契機に、彼等は、徐々に集団に適応していくことが多く、安定して通室するようになります。

「わかば教室」の活動は学校や家庭・地域の連携協力に支えられています。これからもよろしくお願いします

楽しかった老人ホーム

…。私は老人ホームがどんな雰囲気のところなのかドキドキしていました。大きな声で話せるか、輪投げ大会で得点を入れられるか、音楽発表で緊張しないかなどいろいろありました。しかし、行ってみるととても温かい雰囲気です。輪投げ大会では 3 本入って得点に貢献でき、音楽発表では、曲紹介のとき、大きな声で言えました。…………（中 1）

平成 17 年度 購入図書案内

—教育資料・広報係—

本年度、以下のような書籍とビデオ・DVD を購入しました。教職員並びに市民の皆様、
どうぞ、ご活用ください

詳細は、事務室に電話で（TEL 042-592-0505）お聞きください。

教科・領域	図 書 名	編・著者名	発行元・出版社
社会	子どもの学びを支える単元の授業 21 ー小学中学年 地域の学習		日本書籍
	総合的学習で役立つ：調べてみよう地域郷土	伊藤純郎	ぎょうせい
	「選択社会」を 10 倍にする授業づくりのヒント	社会科教育研究会	明治図書
算数・数学	個人に応じた指導に関する指導資料：中学校数学編		文部科学省
	算数教育指導辞典	日本数学教育学会	教育出版社
	危機に立つ日本の理数教育	松田良一 正木春彦	明石書店
理科	小学校 理科の学ばせ方 教え方事典	角屋重樹	教育出版社
	学校支援ボランティア	佐藤晴雄	教育出版社
生活科	図解雑学 昆虫の科学	出嶋利明	ナツメ社
	カイコの絵本	木内 信	農文教
	標準校正必携（第 7 版）		日本エディタースクール
	ケナフの絵本	ちばこうぞう	農文教
体育	小学校体育 見通しがもてる 全単元・全時間の授業のすべて 5 年・6 年	藤崎 敬	東洋館
道徳	道徳授業原論	深沢 久	日本標準
	新道徳教育論	山崎英則	ミネルバ書房
	授業がおもしろくなる 21 授業のネタ道徳 I（全年）	渡邊達生	日本書籍
	道徳教育をまなぶ （21 世紀を生きる子どものために）	遠藤 克弥 田部井 潤	川島書店
教育相談	臨床心理士に会うには 2005 年版	日本臨床心理士会	草原社
	WISC-Ⅲアセスメント事例集—理論と実践	上野一彦	日本文化科学社
	気持ちの本	森田ゆり	童話館
	孤独よさようなら 母親からの脱却	国谷誠朗	集英社
	非行臨床の対応と援助	生島 浩	日本評論社
情報	超図解MOU S 教本 WORD 2003 一般レベル	エクスメディア	エクスメディア
	超図解MOU S 教本 Excel 2003 一般レベル	エクスメディア	エクスメディア
	超図解MOU S 教本 WORD 2003 上級レベル	エクスメディア	エクスメディア
	超図解MOU S 教本 Excel 2003 上級レベル	エクスメディア	エクスメディア
	ディープ・ブルー DVD		BBC
	スーパー エイゴリアン ビデオ		NHK

